

令和2年度 産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点 運営委員会での指摘事項に対する対応

令和2年度の運営委員会にて委員の皆様からご意見・ご指摘いただきました事項について、下記の通り対応させていただいております。

- ① 対面より Zoom が良いという人もいるかもしれないので、オンラインの研究集会を援助する公募を出した方が良いのでは。
(対応済) 研究集会ではオンライン開催やハイブリッド開催を可能としており、Zoom 有料アカウントや詳細なマニュアルの整備など、支援体制ができています。
- ② 来年度予算をあまり使わないのであれば（旅費がいらぬなどで）、公募の件数を増やすといったことも考えられる。件数と種別はさらに調整する可能性がある。実際に若手研究については、短期共同研究より短期研究員の方が応募しやすいという意見があるので、増やす方向で検討する。
(対応済) 対面でのイベントの開催や出張そのものが令和3年度も困難であることが予想されることから応募件数は減少が予想されたため、全体の公募件数はほぼ例年通りに抑えました。予想通り、対面での開催が重要な一般研究枠での短期共同研究、短期研究員は応募が計1件のみでした。ただ、若手研究については、令和3年1月に行った再公募の効果があり、3件の募集に対して5件（うち2件は継続課題）の応募があり、全ての課題を採択しました。
- ③ 予算として何が使えるか、外国人に謝礼を出せるか等を公募要領に記載してはどうか
(対応予定) 謝金の支出が可能になりました。公募要領には記載せず、各研究代表者宛に通知しています。謝金に関することは今後 Q&A に記載することを検討します。
- ④ 数学的に議論しやすいように、黒板の役割となるようなツール・プラットフォームを提供してはどうか。
(対応済) DTEN Board、iPad Pro2 台を購入しました。ホワイトボードツールとして提供しています
- ⑤ 女性が少ないので、提案者・参加者に女性も入っていただくよう公募を出す段階で一言文を追加する、もしくは、新しい枠として女性枠を設けるか検討する
(対応予定) 令和4年度「女性研究者活躍支援研究」を設定します。
- ⑥ 公募の件数と、実際の採択数を種別によってフレキシブルに変えるのはいいが、枠を超

えて採択可能なことを公募の際に分かりやすく記載してはどうか

(対応予定) 「採択数は申請状況に応じ、公募要領中の採択予定数を超えて採択するなど柔軟に運用する」ことを公募要領に明記します。

- ⑦ 報告書は、3年を限度として公開延期を可能としており、web 公開延期のものは全体を公開していないが、一部でも公開してはどうか

(対応済) 令和3年度より一部公開しております。

- ⑧ 今までの IMI での成果 (数学としての分類・応用分野としての分類) がまとまって見ると良いので、どのように共同利用研究が活動されていて、どういった貢献がされているかを可視化して (Web 上で公開して) はどうか

(検討中) テキストマイニングして可視化してくれるツールの使用を検討しております。